



2012.9.21
第149号

発行
村会 町員 市協 県委 島育 福教
会会 支支 津支 津協 津協 津協
会会 会会 会会 会会 会会 会会
会会 会会 会会 会会 会会 会会

編集
福島 島育 津教 津教 津教 津教
会会 会会 会会 会会 会会 会会

編集協力
小・中 中 中 中 中 中
学学 学学 学学 学学 学学 学学
校校 校校 校校 校校 校校 校校
長長 長長 長長 長長 長長 長長
会会 会会 会会 会会 会会 会会

笑顔の力



会津教育事務所

業務次長 寺木 誠伸

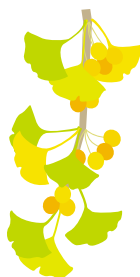
だいぶ昔のこと、私のクラスに不登校の生徒がいた。その子はまじめでとてもおとなしく、極端に口数は少なかったが、だからも無視されたりいじめられたりしてはいなかった。クラスメイトが毎日迎えに行ったものの、不思議なことに行事等がある日のみ登校した。両親は病弱で定職に就くことができず、大変貧しい家庭であった。

ある日、家庭訪問に向いた時のこと、両親、本人、私の四人がコタツの辺に座り、座り、みんなが下を向き黙って解決の糸口は全

く見えず、お茶が注がれていて、目の前の古く薄汚れた湯飲み茶碗をぼんやりと見つめるだけであった。ふと顔をあげた時のこと、天井から小さな「蜘蛛」が、まるでスローモーションのように、糸をひきながら真っ直ぐに私の茶碗の中に入った。その後、母親から「先生、茶碗が汚くてすみません。せっかく来ていただいたのに、この子は学校には行きそうにないし、飲んではいけないお茶も出せなくて」という一言。「蜘蛛」がダイビングをしたことは気付いてくれなかったようである。「飲むしかない!」。すっかり冷めたお茶を、なぜか更に冷

ますように息を吹きながら、蜘蛛を茶碗の向かい側に追いやり、うまく内側に貼り付け一気に飲んだ。その時、急に顔を上げた生徒のほっとしたような笑顔は、蜘蛛のお茶を飲んだことなどすっかり吹き飛ばすような眩しいものだった。皆さんが当然思っているように、事情を説明してお茶を換えてもらえば良かっただけのことだった。しかし、それも言ってはならないような気がした。その後話が弾んだわけでも、本人が学校に来る決意を述べたわけでもなかった。しかし、帰り道、なぜか、やっと「教師」になった、と感じた。「蜘蛛」が運んだ彼女の笑顔に私は教師にもらった。

各校への訪問でも、先生方の笑顔が子どもたちを育てていることを心から感じる。



前期の所長(管理)訪問から

学校経営への支援を充実させるために、昨年度から所長訪問に併せて実施している「管理訪問」の前期分が終了しました。前期(第一学期)は、小学校36校・中学校21校の計57校を訪問させていただきました。

学校事故や教職員事故・不祥事などの未然防止に關しても、校内服務倫理委員会を定期的に開催したり、その内容を工夫して充実させたりする取組みが目につきました。

各学校では、それぞれの課題を的確に把握・分析して、学力向上や生徒指導、事故・不祥事防止などに真摯に取り組んでいる様子が伝わってきました。目標や共通実践事項を明確にして、組織的に取り組んでいる学校では、成果が顕著です。教職員目標管理制度を有効に機能させて、学校課題の解決につなげようとしている学校が目立ったことも、望ましい傾向でした。成果の確認のためにも、教室訪問や中間面談などを積極的に実施してください。

域内服務倫理対策会議等でも、職員会議やその終了後に時間を確保し、体験発表や事例研究を行うなど、教職員が主体的にかかわることができるよう、内容や方法について情報交換を行ったところでした。効果的な手立てを自校化していただき、今後の未然防止等にぜひつなげてもらいたいと思います。

なお、第一学期は、交通加害事故(追突)が多発しました。運転に集中できるように、荷物の置き場所や携帯電話の受信設定などに留意して、安全運転を実践していきましょう。

総務社会教育課だより

～今後の事業紹介～

1 豊かな心をはぐくむ子ども読書活動推進事業
「子ども読書活動推進研修講座」
期日 平成24年9月26日(水)～28日(金)
会場 会津若松市文化センター

2 子どもをはぐくむ家庭・地域支援事業
「地域子育てサポートチーム地区別研修」
期日 平成24年10月26日(金)
会場 會津稽古堂

3 学びを通じた被災地の
地域コミュニティ再生支援事業
(学校支援事業・地域支援推進事業)
「第2回コーディネーター課題別研修会」
期日 平成24年10月27日(土)
会場 福島県立博物館
(放課後支援事業)
「第2回コーディネーター課題別研修会」
期日 平成24年12月1日(土)
会場 郡山市労働福祉会館



4 いきいき地域文化活力創出事業
「会津・漆の芸術祭2012」
期日 平成24年10月～11月
会場 会津若松市・喜多方市



5 ふくしまっ子体験活動応援事業
「ふくしまっ子体験活動応援補助事業」
対象団体 公民館、幼稚園、保育所、社会教育団体（子ども会、スポーツ少年団、PTA等）
対象期間 平成24年12月1日～平成25年1月31日
補助内容 幼児・児童・生徒が5名以上で、日帰りまたは宿泊を伴う体験活動や交流活動を行う団体に、宿泊費と交通費・体験活動費を補助する。
○宿泊費（食費を含む）
1人当たり1泊5,000円を上限とする。（7泊まで）
○交通費・体験活動費
1人当たり2,000円を上限とする。

1学期を振り返って

学校教育課

1 1学期の要請訪問を終えて

幼稚園、小・中学校あわせて35回の訪問をさせていただき、ありがとうございました。訪問を通して、今後学力向上のためにぜひ重点的に取り組んでいただきたい点について述べます。

- **ポイントを明確にした実態把握**
児童生徒の実態は全体的な把握ではなく、単元や本時の目標や指導内容との関わりでポイントを明確にして、把握するようにすること。
- **時間を確保した児童生徒主体の授業**
児童生徒が考えたり、活動や作業をしたりする時間を十分に確保し、児童生徒主体の授業づくりをさらに進めること。
- **整合性がある授業**
学習課題、課題追究の内容と方法、まために整合性のある授業づくりをすること。
- **多様な学習形態**
目的に応じた多様な学習形態を取り入れ、一人一人の学びを高め深めること。

○ 効果的な板書の工夫

めあてを明確にしたり、課題解決のための思考を助けたり、学習の足跡が見えるようにしたりするための、構造的・効果的な板書を工夫すること。

2 放射線教育の推進について

先日、新たに追加の福島県指導資料を配付しました。放射線教育は重要かつ先が見えにくい内容で、進める上でいろいろな課題があります。そこで、会津教育事務所では独自に「放射線教育支援研修会」を2回実施しました。また、要請により市町村教育委員会主催の研修会に担当指導主事が出向き、講話等を行いました。さらに、会津教育事務所のホームページでも、放射線教育のページを開設しました。今後とも各校の実践が進められるよう支援してきたいと思えます。

なお、各学校においては、全員で文部科学省の副読本、県教育委員会指導資料の内容を確認し、学校全体で指導方針を明確にして、進めていただきたいと思えます。



連携こそ力

柳津町教育委員会教育長 目黒 健一郎

柳津小・中と西山小・中の4校で、小学生162人、中学生98人が学んでいるわが柳津町。周辺の町村同様に少子化が進んでおり、最も少ない西山中学校の12人をはじめ34人、86人、128人の在籍である。しかし、一人ひとりの頑張りは大人数の学校には負けないすばらしいものであると自負している。

学校だけでなく教育委員会も少数精鋭で取り組んでいる。4月から前教育長の残任期間を勤めさせていただいているが、学校での経験中心の私にとっては初めてのことが多い。職員にこれまでの経過などをいちいち聞いて対応しているのが日課である。

教育委員会の所管は小学校、中学校、公民館そしてB & G海洋センターの体育施設、さらに、斎藤清美術館等。付随する内容はかなり幅広い。

少ないスタッフで最大の効果を挙げるためには連携を大事にしなければならないと考えている。

学校同士の連携で修学旅行や宿泊学習、教職員の研修を展開してきた。さらに今年は、隣町の小学校との連携を実施した。まだ交流中心だが児童のインパクトは大きかったようだ。放課後子ども教室ではスタッフと学校の連携が重要だ。これら連携の要は各校の校長のリーダーシップと教頭の力量、そして職員のチームワークである。

また、それぞれの情報は、「やないづ教育ねっ」とで交換し合い、同時に保護者や町民に知らせてきた。そのことで町民の理解を深め、連携の足がかりを確かなものにしていきたいと考える。

生涯学習や社会体育、特に美術館では県内、県外の関係団体との連携が大事だと考えている。

そして何よりも、教育委員会と町当局との連携がこれら全ての基本として重要であると強く感じている。

我がまちからの情報発信

会津美里町教育委員会

天海大僧正で情報発信！

当町には、国宝の一字蓮台法華経や会津総鎮守の伊佐須美神社、野口英世ゆかりの中田観音、東北最大級の向羽黒山城跡、そして伝統産業の会津本郷焼など、会津文化を語る上で欠くことのできない文化遺産が数多く残されています。

この歴史と文化の町をPRするため、町のイメージキャラクター『あいづじげん』が、町内外はもとより、日本全国で「東日本大震災からの復興と風評被害の払拭」と併せて活動を行っています。この『あいづじげん』とは、江戸時代の僧侶天海大僧正の諡号（おくり名のこと）である慈眼大師からとったものです。天海は江戸幕府の礎を築いた徳川家康・秀忠・家光の歴代將軍に仕え、比叡山延暦寺の再興や日光東照宮の造営、東叡山寛永寺の開山などに携わった、郷土の偉人です。

当町には、現在でも天海に関連した多くの史跡や伝承が残っています。国宝を所有し蓮の寺として有名な龍興寺には、「天海大僧正両親の墓」があり、天海自身もこのお寺で得度（出家）し

たと伝えられています。この他にも、慈眼大師誕生地や文殊院、護法石、浮身観音堂跡などがあり、こうした文化遺産を大切に保存し活用するため、教育委員会では昨年度に天海大僧正についての「歴史講座」を4回開催し、本年度は商工会・観光協会と連携し「歴史講演会」を開催致しました。

歴史や文化は各地域独自のものであり、これらを育むことで、住民の教養を高めるとともに、地域コミュニティの再生につながっていくものと考えています。教育委員会としても、個々の文化財を保存するだけでなく、地域の歴史や文化について総合的に把握し、社会全体で文化財を継承していく土壌づくりに努めていきたいと考えています。



作品と指導

工作

『かえるの合唱』

会津坂下町立金上小学校
6年 佐藤 玲奈



針金のクランクを使って、かえるや音符が上下に動く仕組みを作りました。針金を曲げたり、ストローの長さを調整したりするのに苦労しましたが、交互に上下する動きを生かし、かえるが楽しそうに合唱する様子を見事に表現しました。

指導者 小林 和子

絵

『から竜』(コラージュ)



磐梯第一小学校第4学年

渡部 利久 吉田 拓馬
ヒルチー 緋那子 本田 怜也
手代木 俊介 中島 晴菜
本多みずき (共同制作)

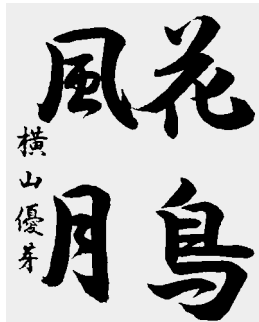
多様な方法で模様をつくった紙を、7人グループで持ち寄り、コラージュの技法を用いて「から竜」を表現しました。

お互いの表し方の工夫や模様的美しさを感じながら、その特徴を生かし、協力しながら力強い「から竜」を作り上げることができました。

指導者 門馬美代子

習字

『花鳥風月』



横山 優芽

喜多方市立第三中学校

2年 横山 優芽

行書の特徴を確かめながら書くよう指導しました。「花」の筆順の変化、「鳥」の点画の省略、「風」の方向や形の変化、「月」の点画の連続を意識し、文字の大きさや配列も大変すばらしい作品です。

指導者 神田 和幸

私の抱負

校長のリーダーシップを求めて



金山町立金山中学校 校長 佐浦 雅明

派遣教員として



タイ・シラチャ 日本人学校 教諭 伊藤 大

交流の家に学ぶ



独立行政法人 国立青少年教育振興機構 国立磐梯青少年交流の家 企画指導専門職 鈴木 亮

新任校長として金山中学校へ赴任し、五か月が過ぎました。充実した教育活動ができ成果を上げることができました。関係各位には心より感謝申し上げます。
「教育は人なり」です。二期からは教職員が同じ方向を向いて、意欲的に教育活動を進め、たくましい金山の子どもたちを育てたいと願っています。そのために教職員から信頼され、教職員のモチベーションを高められる校長でありたいと思います。もちろんその難しさも重々承知しておりますので、これまで以上に町教育委員会様、会津教育事務所様のご指導を自ら求め、先輩校長先生方に相談し、校長としてより良いリーダーシップを求めていきたいと考えています。

四月、シラチャ日本人学校に赴任しました。日系企業もたくさん進出しており、毎年五十名程度児童生徒が増加しています。
先日、五年生と臨海学校に行きました。いわきでの宿泊学習を思い出しました。水族館見学や海水浴、ナイトハイク、福島第一原子力発電所見学など。その一年九月後に、大震災が起きました。
再開できぬ学校があり、県外へ避難している児童が多数いる郷里の現状を思うにつれ、この貴重な臨海学校を体験できる幸せに、感謝せずにはいられませんでした。
私は今、海外の教育事情を肌で感じ、全国から集まった先生方から刺激を受けることができる恵まれた環境におります。この貴重な経験を、福島の子どもたちに還元できるように精一杯がんばります。

「私に何ができるのか？」
そう問いかける毎日である。今年四月より、「家」のお世話になっている。
六・七月に事業の一つとして小学生の親子と磐梯山登山をする機会があった。
「苦しかったけど、山頂まで登れてよかった。」「初めて磐梯山に登った。子どもと登る機会ができて、いい思い出になった。」などの声が聞かれる中で、自然体験が与える影響力を感じた。
体験活動がこれからの社会に必要な「生きる力」を身につけるためには必要なのであることはいままでもない。
交流の家が社会教育の拠点として体験活動のよりよい機会や場を提供できるよう努め、自分自身が「子どもたちのやる気」を育てるプロとして成長していきたい。